

" Yesterday → Today → Monday? "

学校長 横山 豊



令和3年の第60作NHK大河ドラマ「晴天を衝け」では、日本の資本主義の父、渋沢栄一の生涯が描かれました。その渋沢栄一に大きな影響を受けたと言われるのが、世界的に有名な「現代経営学の父」と呼ばれるピーター・ドラッカーです。ドラッカーも「経営の『社会的責任』について論じた歴史的人物で、かの偉大な明治を築いた大人物と言えば、渋沢栄一である。彼の右に出る者はいない」とさえ言っています。

先日読んだ『今、なぜドラッカーと渋沢なのか?』という本によると、この偉大な2人が企業や組織に求めたものは、モラルや倫理観に裏打ちされた人材を育成することであり、お金だけを重視する資本主義からヒトを育て大切にす資本主義への転換を提言し続け、広がる格差と社会の分断に警告を発したのだそうです。

現在はコロナ禍で中断していますが、本校では、高校1,2年生の希望者でアメリカへ語学研修に出かけ、ドラッカーが20年に渡り教鞭を執っていたロサンゼルス郊外のクレアモントカレッジにおいて、彼が高校生向きに作った「重要な5つの質問(THE FIVE QUESTIONS)」というフレームワークを用いて、部活動や学校行事の運営、生徒会活動、日々の学習、受験、将来の目標を達成するための考え方や方法論について学んできました。

また、アメリカの大学生活の様子を知るだけでなく、世界トップクラスの大学で学ぶ理由について考え、学生たちの世界観や人生観に触れることで、自らの学ぶ動機を見つめ直してきました。

午前はEmpowerment(自立する力をつける) Program。午後はDrucker Future Leaders Session。私も生徒とともに学んできましたが、朝の8時から夜の8時まで英語漬けで、とてもハードな8日間でした。

最終日は、練り上げたプレゼンテーションで、1人ずつ将来の夢について英語で思いを語ることにより、濃厚な研修は終わりました。

記念すべきその第1回の研修の中で、今でも私の心

に強く残っていることがあります。それは最後の晩の反省会でのことでした。夕食が終わり宿泊したホテルの中庭に集まり、かなり疲れていたとは思いますが、生徒たちが研修の感想を述べてくれました。

ある生徒が言いました。「私の夢はディズニーランドで働くことです。その夢が叶うように、帰ったら頑張ります」と。

また、ある生徒は言いました。「私は高校入試で失敗して、心の底でどこかうじうじしながら今まで学校生活を送っていましたが、今回の研修でこれからどうしたらよいか分かりました。日本に帰ったら、私は頑張ります」と。

さらに、このようなことを話した生徒もいました。「私は母に言われて、嫌々この研修に参加しました。だから初めは英語にも外国にもほとんど興味はありませんでした。でもこの研修が良い機会となって、医者になるという夢が明確になりました。帰国したら、懸命に勉強して将来は立派な医者になります」と。彼は現役で某国公立大学の医学部医学科に合格しました。

一人ひとりの様々な思いや決意が語られました。その時の、それぞれの立ち位置がありました。これまでの「過去」があって、その時の「現在」があって、これからの「未来」がある。その「未来」は、これからの努力であったり生き方で、どのようなものにも変えられる。生徒たちはいつの間にか自分の近い未来への、あるいは遠い未来への決意を語っていました。

講座の中で、「願うだけでは夢は叶わない。夢を達成するためには、目標を達成するための考え方や方法論を学び、実践することだ」というドラッカーの教えがとても心に残りました。渋沢とドラッカーはこの部分が共通しており、「言葉より行動」という格言よろしく、特に渋沢はフットワークも軽く、常に行動を起こし続けた人物であったようです。

「Yesterday(過去)→Today(現在)→Monday(未来)」と書かれた名刺(Business Card)をPeter Drucker Instituteのスタッフがくださいました。

「過去」から学び、目的を持って「現在」を生き、確固たる「未来」を構築していく。その「現在」を君たちは生きています。

Dreams Come True!それぞれの夢を叶えるために、今をしっかりと生きましょう。

